

職業の可視化による高校生の進路選択支援システムの提案

久保田 龍平†

専修大学 経営学部 経営学科†

植竹 朋文‡

専修大学 経営学部 経営学科‡

【1. 研究背景】

文部科学省では、キャリア教育の推進と充実を目指すように呼び掛けている。しかし、キャリア教育を受けるだけで、高校生が真に望む進路を見つけるとするのは難しい。

【2. 研究対象・目的】

本研究では、進路選択を控える高校生を対象とし、高校生のニーズを考慮した上で多くの職業を提示し、進路選択をサポートするシステムを提案することを目的とする。

【3. 現状分析】

まず、高校生が職業選択時に重視することに関して、Big Life21 [1]の記事にあるアンケート結果を分析したところ、以下の点が明らかになった。

- 業務や仕事内容が最も重視されている
- 安定性や先輩の有無は重視していない
- やりがいに結びつきやすいような項目が上位を占めている

次に、職業を知るための既存サービス [2][3][4] を分析した結果、以下の点が明らかになった。

- 職業は分類ごとに表示されるため、十分に活用するには事前知識が必要
- 職業名や関連ワードから検索をしなければ興味のある職業にたどり着きにくい

【4. 先行事例の分析】

次にキャリア教育・職業教育を行う高校 [5][6] の取り組みについて分析し、以下のことが分かった。

- 実社会や職業に触れる機会をカリキュラムに組み込んでいる
- 生徒の興味や関心が、取り組みに十分反映されていない

【5. 現状分析と先行事例の分析のまとめ】

現状分析と先行事例の分析のまとめた結果、キャリア教育を受けている高校生の要望と学校側の提示する職業情報がミスマッチしている可能性があることが明らかになった (図 1)。



高校生のニーズに対して、提供される情報がマッチしていない。

図 1：現状分析と先行事例の分析のまとめ

【6. 高校生の進路選択支援システム提案】

ユーザ (高校生) のニーズを考慮した職業を幅広く可視化することでき、またその職業に関する情報を提示するシステムを提案する。具体的には以下の 3 つの機能を提案した。

① ユーザの多様なニーズを考慮したフィルタ機能

ユーザが入力した職業やキーワード、エリアをもとに、職業情報 DB を用いて、関係する職業やキーワード、エリアを抽出する (図 2)。

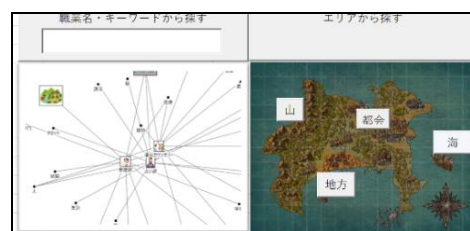


図 2：ユーザの多様なニーズに合った検索機能

② 職業間の関連可視化機能

①で抽出された情報を、力学モデルに基づき、NodeXL [7] を用いてネットワーク図で可視化する (図 3)。

③ 仕事内容の比較支援機能

各職業の説明文で作成したワードクラウドを表示することで、業務・仕事内容の視覚的な把握と比較を容易にする (図 4)。

Proposal of career selection support system for high school students by visualization of occupation

†Ryuhei Kubota, School of Business Administration, Senshu University

‡Tomofumi Uetake, School of Business Administration, Senshu University



図5：システム概要

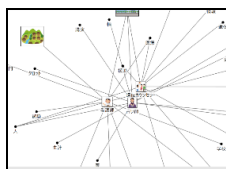


図3：職業間の関連

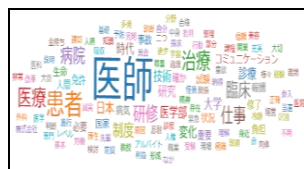


図4：職業の説明

★職業情報 DB

13歳のはろーワーク[3]の各職業データに以下の項目を追加したものを作成。

- ・分野：13歳のはろーワーク[3]にて使用されている13分野
- ・キーワード：各職業の説明文で頻繁に使われる名詞上位10個
- ・エリア：キャリアマガ[4]に掲載された勤務地エリア情報

【7. 高校生の進路選択支援システム概要】

提案したシステム概要を図5に示す。

【8. 効果検証】

提案システムの有効性を検証するため、高校生2名を対象に提案システムを30分利用してもらい、参与観察とインタビュー調査を行った(表1)。

(表1：効果検証の結果)

	既知の職業数 / 新知の職業数
Aさん(高2女子)	10個 / 31個
Bさん(高2女子)	13個 / 29個

検証の結果、ユーザのニーズに関連した職業の知識を増やすことが確認された。さらに、提案システムを対話的に利用することで、幅広い多くの職業を認知することが可能であることが明らかになった。

【9. 結論と今後の課題】

本研究で提案した、高校生の興味の視点で検索可能なシステムを利用することで、「興味」と「職業」とのサイクル(図6)を回すことができ、新たに多くの職業を知ることができると考えられる。



上記のサイクルを円滑に回すことで、職業への認知が高まる

図6：職業認知における理想のサイクル

しかし、参与観察とインタビュー調査から、エリアに関する情報の有効性について改善の余地があることや可視化するキーワード等の情報量については調整が必要であることが明らかとなった。

今後は、ユーザと職業を結び付ける多面的な切り口について再検討し、よりユーザのニーズを考慮した職業情報の提示を目指したい。

◆参考文献

[1] Big Life21 : <http://www.biglife21.com/>
 [2] 総務省 : <http://www.soumu.go.jp/>
 [3] 13歳のはろーワーク : <https://www.13hw.com/home/index.html>
 [4] キャリマガ : <https://www.nikki.ne.jp/magazine/>
 [5] Will Project : 秋田県立能代高等学校
 [6] デュアルシステム : 大阪府立布施北高等学校
 [7] NodeXL : <https://www.smrfoundation.org/>